

灯

(あかり)

『汗を流して、未来を拓く』

令和5年10月23日(月) 第16号

文責：校長 森下 隆司

玉之浦小中学校児童生徒の活躍と行事を通しての学び

10月に入り、校内外での行事において、子供たちの素敵な姿が見られました。10月4日に開催された「中総体駅伝大会」では、生徒がそれぞれの役割を自覚し、やり遂げる頼もしさを感じました。競走なので順位がつくのですが、順位やタイムという結果を超えた経験を味わえたのではないかと思います。中学生の立派な姿に、思わず涙が出てしまいました。

10月7日には、「五島市小学校体育連合大会」が開催されました。極小規模校である玉之浦小学校の子供たちは、他校の人数の多さや普段馴染みのない会場に臆するのではないかと心配していましたが、そんな心配は無用でした。子供たち一人ひとりが全力を尽くして競技に向き合う姿は、中学生と同様に感心させられました。競技とともに、他校児童の様子から学ぶべきことを感じてくれていれば、五島市内児童が一堂に会する目的にあった経験となります。

そして、10月9日の「玉之浦町市民運動会」での活躍です。玉之浦町の人口減少を目の当たりにする会場でしたが、小中学生が活躍することによって、玉之浦町の皆さんにも元気を与えられることを実感しました。やはり、子供たちは「地域・ふるさとの宝」であることを感じるとともに、学校が果たすべき役割の重さも実感しました。

様々な行事を行うと、小中学生の潜在能力の高さをひしひしと感じます。学校の役割は、その子供たちの無限の力を引き出すことにあると思います。教職員一致団結して、子供たちの成長のために邁進していきますが、家族・地域の皆様のご協力は、私たちにとっても背中を押してもらえる力強いものです。今後とも学校へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



たまんなっ子じまん — 俳句作成での活躍 —

長崎新聞「メクル 第725号『レッツ575』」に小学生の作品が掲載されました。小学生も中学生に負けず劣らず、優秀作品の掲載が続いています。時期的に夏がテーマになっている俳句を見ると、少しずつ季節の移り変わりを感じる今日この頃です。今後は秋か冬にかけたテーマの作品が掲載されるのを楽しみにしています。



長崎新聞「メクル第725号(9/24)」掲載分

「やぐらのり たいこたたくよ 夏祭り」4年 高石 達也

「夏かぜが 長引きつらい はあつらい」3年 田端 渚